

## 検索ボックス

<< 2023年07月 >>

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

## 最近の記事

- [\(07/31\) コロナ抗原検査は2回以上やると精度が上がる](#)
- [\(07/31\) アメリカではコロナ再感染は若い人に多い](#)
- [\(07/28\) 運動は週末だけでもいいかも](#)
- [\(07/26\) 男性更年期障害のホルモン補充療法の安全性](#)
- [\(07/24\) 正中菱形舌炎](#)

## 最近のコメント

- [23価肺炎球菌ワクチンの局所反応](#) by (07/11)
- [急性心不全のラシックスの効果減弱](#) by (06/10)
- [小児の腸重積・ロタウイルスワクチンとの関係について](#) by (05/02)
- [II型糖尿病患者にスルホニル尿素薬の有効性について](#) by (04/19)
- [腫瘍関連遺伝子の変異とピロリ菌感染](#) by (04/08)

## タグクラウド

## カテゴリ

- [小児科](#) (242)
- [循環器](#) (276)
- [消化器・PPI](#) (158)
- [感染症・衛生](#) (306)
- [糖尿病](#) (142)
- [喘息・呼吸器・アレルギー](#) (110)
- [インフルエンザ](#) (111)
- [肝臓・肝炎](#) (66)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導](#) (52)

[<< 新型コロナに吸入ステロイド剤は有効か？ COPDと喘息の場合 | TOP | コロナ禍での他の感染症 >>](#)

2020年11月28日

## 糖尿病治療薬のSGLT-2阻害薬の副作用 用量依存性に関する考察

### 糖尿病治療薬のSGLT-2阻害薬の副作用 用量依存性に関する考察

Clinical Adverse Events of High-Dose vs Low-Dose Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitors in Type 2 Diabetes



糖尿病治療薬のSGLT-2阻害薬は、今や第一選択薬に上り詰める勢いです。心臓疾患や腎臓疾患にも優位に働くため、使用の幅が広がっています。単独使用の場合には、低血糖の心配もあまりなく、処方しやすい薬剤の一つです。副作用として懸念されているのが、稀とは言われていますが、現段階ではカナグルとフォシーガに、尿路感染症、ケトアシドーシス、急性腎障害があります。カナグルに、下肢切断、骨折のボックスワーニング（警告）もされています。問題は血糖改善のために効果を上げるため、低用量から高用量に増量した時に副作用が出ないか心配になります。今回、雑誌J Clin Endocrinol Metabの論文が全文medscapeに掲載されていますので、纏めてみました。

- 2006年1月1日から2020年3月10日のメタ解析です。51の文献から、24,371人のSGLT-2阻害薬服用者を登録しています。それぞれのSGLT-2阻害薬の中で12,208人の低用量と、12,163人の高用量を比較して副作用を調べています。

副作用のチェックは全体の安全性として、

- すべての副作用 ・重篤な副作用 ・副作用で薬の中断 ・死亡 などです。
- 特別な安全性として、
  - 感染症 ・骨筋肉症状 ・胃腸症状 ・多尿
  - めまい ・腎障害 ・脂質異常症、高尿酸血症 です。

- 全体として、何らかの副作用出現は低用量群で69.3%、高用量群では69.4%でした。高用量群の低用量群に対する危険率は、1.08とほぼ同じです。血糖降下作用は容量依存性です。高用量により、HbA1cは0.5%から1.5%の低下です。加えてフォシーガは、尿酸を下げる効果もあり、用量依存性で5から50mg低下しています。心血管疾患と腎疾患に関しての効果に関しては、その用量依存性は証明されていません。カナグルにおいては、高用量の方に副作用が多いようです。ただし、それは頻尿においてでした。一般的に低用量より、高用量の方が副作用が多いのは26週以上の経過後です。
- 特別な副作用に関しては、性器真菌症は両群で同等でした。

[脳・神経・精神・睡眠障害](#)(55)  
[整形外科・痛風・高尿酸血症](#)(38)  
[フクチン](#)(89)  
[癌関係](#)(12)  
[脂質異常](#)(30)  
[甲状腺・内分泌](#)(21)  
[婦人科](#)(12)  
[泌尿器・腎臓・前立腺](#)(47)  
[熱中症](#)(7)  
[日記](#)(25)  
[その他](#)(90)

## 過去ログ

[2023年07月](#)(15)  
[2023年06月](#)(14)  
[2023年05月](#)(15)  
[2023年04月](#)(15)  
[2023年03月](#)(15)  
[2023年02月](#)(14)  
[2023年01月](#)(15)  
[2022年12月](#)(12)  
[2022年11月](#)(16)  
[2022年10月](#)(15)  
[2022年09月](#)(13)  
[2022年08月](#)(17)  
[2022年07月](#)(13)  
[2022年06月](#)(15)  
[2022年05月](#)(15)  
[2022年04月](#)(14)  
[2022年03月](#)(15)  
[2022年02月](#)(14)  
[2022年01月](#)(16)  
[2021年12月](#)(14)  
[2021年11月](#)(17)  
[2021年10月](#)(17)  
[2021年09月](#)(13)  
[2021年08月](#)(16)  
[2021年07月](#)(12)  
[2021年06月](#)(16)  
[2021年05月](#)(16)  
[2021年04月](#)(14)  
[2021年03月](#)(18)  
[2021年02月](#)(19)  
[2021年01月](#)(16)  
[2020年12月](#)(17)  
[2020年11月](#)(15)  
[2020年10月](#)(17)  
[2020年09月](#)(19)  
[2020年08月](#)(14)  
[2020年07月](#)(17)  
[2020年06月](#)(14)  
[2020年05月](#)(21)  
[2020年04月](#)(18)  
[2020年03月](#)(18)  
[2020年02月](#)(18)  
[2020年01月](#)(19)  
[2019年12月](#)(14)  
[2019年11月](#)(15)  
[2019年10月](#)(18)  
[2019年09月](#)(18)  
[2019年08月](#)(14)  
[2019年07月](#)(14)  
[2019年06月](#)(16)

以降はカテゴリーで検索してください。

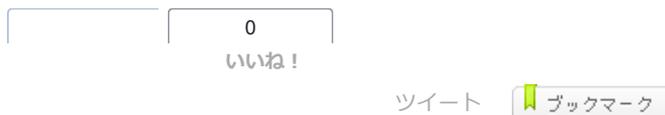
性器感染症は、フォシーガでは高用量の方が多い傾向です。  
尿路感染症は、両群で差はありませんでした。

- 4) 多くの利尿薬（サイアザイド系とループ利尿薬）は、用量依存性で利尿効果が上がりませんが、  
血清カリウム、耐糖能や尿酸値に影響を与えてしまいます。  
一方で、SGLT-2阻害薬における利尿効果は、尿細管に局限して作用し、バソプレッシン（抗利尿ホルモン）を刺激し、尿の再吸収を誘導して、結局は体内の水分量は保持します。  
このことが従来の利尿薬と異なり、心不全に対するSGLT-2阻害薬の独特の有効性を発揮します。
- 5) 結論としては、血糖コントロール不良の場合はSGLT-2阻害薬の増量は可能であり、副作用に関しては、低用量と高用量で差はありませんでした。

私見)

SGLT-2阻害薬の安全性と有効性が証明され始めています。しかしながら、コストの問題とそれでも注意が必要のようです。

[SGLT 副作用.pdf](#)



### 【糖尿病の最新記事】

[高齢の糖尿病患者に対するHbA1cの目標..](#)  
[長時間作動型GIP/GLP-1受容体作動..](#)  
[II型糖尿病患者にとって運動は午後がよい](#)  
[II型糖尿病の飲み物の影響](#)  
[糖尿病患者に解熱鎮痛薬は注意](#)

posted by 斎賀一 at 17:31 | [Comment\(0\)](#) | [糖尿病](#)

## この記事へのコメント

